



祐介の目

No.147

大田祐介 (福山市議会議員)

福山藩士の名前が刻まれている。しかし門は老朽化著しく、倒壊の危険性が高まっている。福山城は築城400年を期にリニューアルされたが、なぜ赤門は手つかずなのだろう。その理由

備後護国神社の赤門

旧阿部神社と護国神社が合併した備後護国神社は元々福山城の縄張りであり、北側にある赤門一帯は戊辰戦争の戦跡だ。慶応4年(1868年)

1月9日、鳥羽・伏見の戦いに勝った勢いで長州軍は防備の薄い福山城北側から攻め込んできたが、福山藩士は神社のある天神山に塹壕を掘って待ち構えていた。そして赤門を挟んでの銃撃戦となり、門には当時の弾痕が残されている。さらに長州藩は大砲を据えて福山城を砲撃し、砲弾が天守を直撃するが辛くも不発だった。このままでは福山城が戦火に包まれると、阿部正弘の側近であった関藤藤陰が使者として長州軍との和平交渉を行い、福山城は戦火を免れた。

このように赤門が福山城北側の守りの要であったことはあまり知られていない。門の内側には「捨生取義」という石碑があり、維新前後の動乱において生を捨て義を取った

は政教分離の原則により、公費を神社に投入できないからだ。東日本大震災の後も同様の問題で被災地の神社の復旧が進まなかった。地域の神社は学校や公民館などと同様の社会資本なのに…

備後護国神社には能舞台もあり、旧阿部神社から承継した建築物で、福山市に現存する四つの能舞台・能楽堂の一つだ。旧藩主阿部家だけでなく、喜多流大島家にもゆかりが深い建物という。戦後もしばらく使用されたものの、年月の経過と共に屋根瓦の一部が破損し、舞台床に雨が降り込む状態になっている。

ついでには能舞台と赤門修復の寄附を募りたいが、備後護国神社は設立された経緯から氏子地域を持たない。以前は市長が奉賛会長を担っていたが、これも政教分離に反すると降りられた。ここは広く市民・企業の皆様に奉賛金をお願いするしかない。新年初詣にもぜひお越し戴きたい。

護国神社 ☎ 084-922-1180